

## 出雲市中小・小規模企業振興モデル事業の実施結果について

## 1. 事業の沿革

平成 29 年 3 月に制定された「出雲市地場中小企業・小規模企業振興基本条例」をふまえ、平成 30 年 8 月に、市内の地場中小・小規模企業の持続的な振興を図ることを目的として、「出雲市中小企業・小規模企業振興計画」(H30～R4) を策定。

この計画をもとに、市内企業が自ら行う課題解決のための取組を支援するため、4 年間にわたり、「出雲市中小・小規模企業振興モデル事業」を実施しました。

## 2. 事業の概要

市内の企業経営者等で構成されるワーキンググループ (WG) が主体となり、市内中小・小規模企業が成長・発展していくためのモデル事業を提案・実施することにより、企業自らが課題に取り組む仕組みづくりや今後の中小・小規模企業の振興施策に活かしていくものです。

## 【提案するテーマの例】

- ・地域内での資金循環の促進
- ・生産性向上に向けた I T 化等の促進
- ・経営者の意識・行動改革と多様化する働き方への対応
- ・人材確保支援
- ・事業承継の支援・第二創業の推進 など

## 3. 令和 4 年度 実施事業

## 【令和 2 年度からの継続事業】

WG 名	事業目的	事業内容(概略)	補助額 (千円)
『出雲STYLE』ブランド開発グループ (R2～R4)	「出雲」のブランディングによる販路や事業の拡大	地元の魅力ある商品を「出雲スタイル」としてブランド化するため、販路、商品内容などのリサーチを行い、モデルとなる業者や小売店を選定。また、リサーチ結果を踏まえて、メインターゲットを 30 代女性に定め、コンセプトの名称 (izumotriko) 及びデザインを決定。選定した商品の販売を行うため、EC サイトを新設した。 令和 4 年度は、EC サイトを改修し、Instagram を活用して情報発信。商品の販売のみを目的とするのではなく、「出雲」を発信することにより、更なる出雲ファンを獲得していくことを目標として取り組んでいく。	R2 : 822 R3 : 210 R4 : 901 計 1,933
出雲市内資金循環促進ワーキンググループ (R2～R4)	市内で資金が循環する経済モデルの創造	持続的な市内資金循環促進について、コーディネーターを招き、勉強会を開催。地域内資金循環の検証を目的に、スマホ決済アプリ (j-coin) による実証事業 (令和 4 年 10 月) を実施した。 また、この実証事業による消費者の決済データ (買い物動向)、アンケート、事業者の仕入れ簿をもとに、地元消費に対する市民の意識調査を行い、地域内資金循環に関する報告書をまとめた。	R2 : 332 R3 : 360 R4 : 1,000 計 1,692

【令和3年度からの継続事業】

WG名	事業目的	事業内容(概略)	補助額 (千円)
多伎元気プロジェクト (R3~R4)	地域資源を有効活用した産業の活性化と町全体の魅力づくりによる目的地化	山陰道開通後においても、通過地とならないため、「地域の連携・名所の再発掘」「効果的なPR方法」「資金循環のための商品づくり」に取り組んだ。フィンランドの妖精「トントゥ」によるブランディング化を検討し、キャラクターを作成。また、関連する独自商品の販売を行った。	R3 : 152 R4 : 976 計 1,128
飲食DXプロジェクト (R3~R4)	デジタル技術活用によるコロナ禍の飲食店利用促進	コロナ禍での飲食店利用の向上に向け、顧客の来店動機を高めるための仕組みを検討。その結果、飲食店の個室の空室状況をホームページ上で確認できるシステムを作成、運用を行った。検証の結果、一定の集客効果があった。	R3 : 0 R4 : 1,000 計 1,000

※ 令和4年度 新規事業なし。各事業の詳細は、別添のとおり。

4. 出雲市中小・小規模企業振興モデル事業（R1~R4）を終えて

令和元年度から4年間にわたり、9つのワーキンググループによるモデル事業を実施してきました。これらの事業により、グループ内の企業間の交流が活発化し、団体の活動強化と人材育成につながったこと、団体の自主財源を確保するための収益モデルの構築につながったことなど、一定の成果があったと評価しています。

今後は、「市内中小・小規模企業等への横展開」に向けて、ホームページやいずも産業未来博、商工団体・産業支援団体における情報発信等を進めます。

また、引き続き、グループの活動の状況を把握しながら、実施したモデル事業が今後の市の施策へ展開できるかどうか検討していきます。

【参考】令和3年度までにモデル事業を終えたワーキンググループ一覧

WG名	事業目的	事業内容(概略)
神門通りうさぎプロジェクト (R1~R3)	商店街の自主財源確保と持続可能な仕組みづくり	出雲神話に縁の深い「うさぎ」を新たなコンテンツとしてブランド化し、街歩きを促す仕組みづくりや関連商品の開発・販売のほか、クーポン付き有料街歩きガイドブックやうさぎスタンプラリーの企画、開発した独自商品の情報発信などを通じて、商店街の自主財源確保に向けた収益モデルの構築に向けて取り組んだ。
斐川特産協会 (R1~R2)	生産者と道の駅による地域産品の商品力・情報発信力の強化	特産品の生産者（協会員）と道の駅湯の川との連携により、斐川地域のキャラクターによる動画等を作成・活用し、特産品の商品販売力や情報発信力の強化を図った。
空き家再生WG (R1~R3)	空き家再生による移住・定住の促進と空き家の商業利用の拡大	空き家の解体や修繕を行うワークショップを開催し、空き家活用のニーズの掘り起こしを行うとともにモニターツアーを実施した。また、雲州平田駅前の空き家を整備したシェアハウス「すずかけ荘」の活用について、グループ内で協議し、入居者募集やオープンスペースのイベント利用を促した。

WG名	事業目的	事業内容(概略)
I Tによる生産性向上WG (R1~R3)	I Tを活用した生産現場の生産性向上と技術の伝承	<p>食品製造現場での課題抽出と解決策を検討するため、「動画による作業改善 I Tツール」を制作。その後、より使いやすいツールにするため、作業評価機能・音声マニュアル機能を追加した。このツールを活用した企業では、業務改善意識の醸成が図られるなど、業務効率化による職場改善につながった。</p> <p>また、このツールを活用した事例発表会を行い、ツール活用の効果を P R した。</p>
神門通りご縁社会推進 E C メンバーズ (R2~R3)	コロナ禍に対応するための新たな販売チャンネル (インターネット通販サイト) の構築	<p>コロナ禍で観光客の落ち込みが大きく、来訪できない観光客等を対象に土産物等を販売することを目的に「出雲大社」「縁結び」「神話」などのイメージを活かした通販サイトを立ち上げた。</p> <p>サイトへのアクセスが低かったことから、課題抽出のためのアクセス解析を実施。その結果に基づき、ターゲットを明確にするなど、サイトをリニューアルした。また、商店街に親しみが持てる動画サイトを開設した結果、売上が増加した。</p>

## 令和4年度 事業実施報告（令和2年度からの継続事業①）

WG名	『出雲 STYLE』ブランド開発グループ			
WG構成員	松井(株) grappino 店長 原田 幹也 他2名			
モデル事業名	出雲スタイルブランド開発グループ			
事業概要	<p>これまであまり知られていなかった地元の魅力ある商品を、ジャンルを超えて開拓し、「出雲スタイル」としてワンブランド化及び商品のブラッシュアップを図る。ブランド認知度の向上により、地元商品を地元で購入・消費する流れを構築するとともに、ブランドを活用した各事業者の販路や事業の拡大につなげる。</p>			
令和4年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に作成したデザインを利用し、イズモトリコのコンセプトが伝わるギフト資材を作成した。</li> <li>・若い女性目線と、県外への販路拡大という将来的な展望を視野に入れた商品選定を行った。</li> <li>・出雲らしさのある風景（稲佐の浜、日御碕灯台、一畑電車、築地松など）を取り入れた「出雲の暮らし」のイメージ動画を制作。</li> <li>・ECサイトを改修し、インスタグラムを活用して情報発信した。</li> </ul>			
令和4年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品選定、ギフト資材の完成により、商品販売までたどり着くことができた。</li> <li>・ブランドコンセプトのイメージが伝わりやすく、出雲の魅力が詰まったイメージ動画を制作することができた。</li> <li>・商品の販売のみを目的とするのではなく、「出雲」を発信することにより、出雲ファンを獲得し、さらなる事業展開をめざす。</li> </ul>			
3年間の事業総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出雲の暮らし」を表すコンセプトを確立し、ブランド化することができた。</li> <li>・ターゲットとする若い女性目線や、県外への販路拡大を視野に入れた商品・販売方法を定めることができた。</li> </ul>			
事業費	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	合計
	822千円	210千円	901千円	1,933千円



## 令和4年度 事業実施報告（令和2年度からの継続事業②）

WG名	出雲市内資金循環促進ワーキンググループ			
WG構成員	(株)田中種苗 代表取締役 田中 充 他3名			
モデル事業名	持続的な出雲市内における資金循環型経済圏域創造事業			
事業概要	市外への資金流出を防ぐため、地元小売店でできるだけ買い物が完結できる仕組づくりを検討していく。地元の消費者に付加価値（メリット）を提供するための手法の検討や消費者目線での現状分析に基づいた新たなビジネススタイルの考察などを通じ、市内で資金が循環する経済モデルの創造に取り組む。			
令和4年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続的な市内資金循環促進についての勉強会を開催し、WG内での理解を深めた。</li> <li>・地域内資金循環の検証を目的に、スマホ決済アプリ（j-coin）による実証事業（令和4年10月）を実施した。</li> <li>・消費者の決済データ、アンケート、事業者の仕入れ簿を元に、地域内資金循環の検証や意識調査を行った。</li> </ul>			
令和4年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の広報を通じて、地域内資金循環の重要性を市民に広く周知することができた。</li> <li>・決済データとアンケートから、消費行動や地域内資金循環に対する市民の認識を知ることができた。</li> <li>・事業者の仕入れ簿とアンケートから、地元仕入れの実態や地域内資金循環に対する事業者の認識を知ることができた。</li> <li>・実証事業にかかる報告書を取りまとめて市に提出。政策提言を行うことができた。</li> </ul>			
3年間の事業総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターを招いた勉強会や行政・商工団体・金融機関等との関わりなどにより、持続的な市内資金循環の理解を深めることができた。</li> <li>・限定的な実証事業ではあったが、市内の資金や市内で稼いだ資金を市外にできるだけ漏らさない「地域内で循環」させることが地域経済の活性化につながっていく可能性を見出すことができた。</li> </ul>			
事業費	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	合計
	332千円	360千円	1,000千円	1,692千円



j-coin 実証事業リーフレット（表面）



（裏面）

## 令和4年度 事業実施報告（令和3年度 新規事業①）

WG名	多伎元気プロジェクト		
WG構成員	(株)多伎振興 常務取締役 杉谷 伸二 他4名		
モデル事業名	多伎元気プロジェクト		
事業概要	<p>令和6年に山陰道「出雲～多伎」間が開通すると、これまで多伎に立ち寄っていた人々が、多伎を通過してしまい、地域産業が衰退する事態が懸念される。この状態を打破するため、「地域の連携・名所の再発掘」「効果的なPR」「資金循環のための商品づくり」を実践する。特産品をはじめとする多伎の地域資源を活用して、山陰道開通後も目的地となるように、多伎町をリデザインすることで、地域コミュニティ及び地域経済を活性化する。</p>		
令和4年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多伎町＝トントウの宿る町」をブランディングするため、認知度を向上するためのキャラクターを作成。</li> <li>・このキャラクターを用いた絵本を制作。また、文具、雑貨、サウナグッズ、クッキーを試作し、3月に試験販売を行った。</li> </ul>		
令和4年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本が完成したことで、「トントウ」を多伎町とフィンランドのストーリーとともに周知ができ、課題であったブランディング強化の足掛かりとして期待できる。</li> <li>・キャラクターを使用した商品を試作し、販売していく体制が整ったため、今後の自主財源確保が見込める。</li> </ul>		
2年間の事業総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多伎町とフィンランドのつながりや「トントウ」の物語を通じて多伎町の新たな魅力をPRすることができた。</li> <li>・関連商品の作製により、「トントウ」の認知度向上を図るとともに、自主財源確保の基盤を整えることができた。</li> <li>・事業に関する資金管理やキャラクター使用に関して、多伎元気な会が引き継ぎ、継続的に事業を行う体制づくりができた。</li> </ul>		
事業費	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	合計
	152千円	976千円	1,128千円



トントウ



トントウの絵本

## 令和4年度 事業実施報告 (令和3年度 新規事業②)

WG名	飲食DXプロジェクト		
WG構成員	(株)エクスブレイン 代表取締役 松尾 貴久 他1名		
モデル事業名	飲食店×DX		
事業概要	コロナ禍により各業界が経済的ダメージを被ったが、中でも飲食業界への影響は顕著である。新しい生活様式を考慮しつつ、飲食店を利用してもらう仕組みを作る。		
令和4年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店の個室の空室状況をホームページ上で確認できるシステムを作成し、利用者が簡単に空室状況を確認できるようにした。</li> <li>・ホームページには客室や料理の写真を併せて掲載し、来店意欲が高まるよう工夫した。</li> <li>・上記システムを運用し、オペレーション上の課題発見及び改善に取り組み、集客効果の検証を行った。</li> </ul>		
令和4年度事業成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の構造をシンプルで分かりやすい設計にしたため、「お客様への宣伝効果」が高いホームページに仕上がった。</li> <li>・実際に運用したことで、円滑にオペレーションするための仕組みづくりができた。</li> <li>・短期間の運用でも一定の集客効果があった。</li> </ul>		
2年間の事業総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアルタイムの空室状況配信により、空きが発生しがちであった平日夜の個室予約増加につながった。</li> <li>・システム構築に際しては、飲食店従業員と意見交換したことで、現場における現実的なオペレーションの在り方を再確認し、より実用的なシステムを作ることができた。</li> <li>・今後、自社での効果測定を行いながら、他社への横展開を検討していく。</li> </ul>		
事業費	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	合計
	0千円	1,000千円	1,000千円



飲食店ホームページ画面での空席情報